

船舶インシデント調査報告書

令和2年9月16日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	運航不能（機関故障）
発生日時	令和元年12月7日 14時50分ごろ
発生場所	明石海峡西方 江井ヶ島港西防波堤灯台から真方位315°820m付近 （概位 北緯34°40.7′ 東経134°54.3′）
インシデントの概要	プレジャーボート ^{マキチヤン} MAKICHANは、漂流中、主機が使用できなくなり、運航不能となった。
インシデント調査の経過	令和2年2月18日、主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート MAKICHAN、5トン未満（長さ6.22m） 260-23033兵庫、個人所有 ディーゼル機関、船内外機、4サイクル、出力58.80kW、回転 数毎分3,000、4気筒、ボア91.5mm、使用燃料軽油、進水年 月昭和63年4月
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北西、風力 2、視界 良好 海象：波高 約1m
インシデントの経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者1人を乗せ、アイドリング 状態で漂流中、波が高くなってきたので帰港することとし、船長が、 操縦席の主機クラッチレバーを前進としたものの、レバーハンドルに 手応えを感じず前後進の切換えができなくなったので、運航を諦めて 118番通報を行い、来援した巡視艇にえい航された。 本船は、本インシデント後、機関修理業者が点検修理した結果、腐 食等による経年劣化により「クラッチレバーから主機に至るワイヤ ケーブル」（以下「リモコンワイヤ」という。）が切断していたことが 判明した。
分析	本船は、リモコンワイヤが経年劣化した状態で漂流中、主機のク ラッチレバーを前進とした際、リモコンワイヤが切断して主機のク ラッチが切り替わらなかったことから、主機の動力がプロペラに伝達 されなくなって運航不能となったものと考えられる。
原因	本インシデントは、本船が、リモコンワイヤが経年劣化した状態で 漂流中、主機のクラッチレバーを前進とした際、リモコンワイヤが切 断して主機のクラッチが切り替わらなかったため、主機の動力がプロ ペラに伝達されなくなったことにより発生したものと考えられる。

再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 船長及び機関整備者は、各種リモコンワイヤの点検及び防錆剤（またはグリース）の塗布を定期的実施すること。・ 船長及び機関整備者は、各種リモコンワイヤを少なくとも約10年ごとに交換することが望ましい。
--------------	---